

Jolandie Rust (ジョランディ・ラスト) 30代 / サウスアフリカ出身
 ▶ http://www.jorust.com
 ▶ 現在の彼女の所有バイク: BMW 1200GS

Ja: 昨夜は興奮して眠れなかったほど、このインタビューを楽しみにしていたよ。初めに、バイクの免許を取ってどのくらいになるの?
 Jo: 4年ね。
 Ja: え、たったの4年!? それはかなり意外! なぜバイクの免許を取得しようと思ったの?
 Jo: 私の最初の大きな夢は、初の女性単独でアフリカ大陸を自転車で行くことだったの。スタート地点は生まれ故郷のヨハネスブルク(サウスアフリカ)で、3,000~4,000km北上アンゴラまで行ったの。そこで不運にも道路脇で男性に襲われて…。その事件を機に自転車からバイクに転換してみよう。バイクには乗ったことがなかったけど、それが免許を取得しようと思ったきっかけになったわ。サウスアフリカに戻り、事件の報告をしたらアンゴラ政府がスポンサーになることを申し出てくれた。
 Ja: 大事に至らず本当に良かった。その事件はいつ起こったの?
 Jo: 2011年だったわ。そして、2012年にバイクの免許を取得したの。ADVライディングに出発するほんの2週間前にね。
 Ja: WOW!! たった2週間前に!? 免許取得後直ぐに出発したなんてすごい! では、現在の所有バイクを教えてください。
 Jo: BMW R1200GSよ。私の最もお気に入りのバイクで、信頼できるマシンね。とっても大好き!
 Ja: 1200は大きすぎるとは思ったことはない?
 Jo: ないないない! このサイズのバイクに絶対に乗ろうと思ってたし、乗り心地は最高!
 M: 君の身長を教えてくださいませんか?
 Jo: 165cmよ。
 M: スタンダードのGSだよ?
 Ja: わぁ〜、スタンダード! 私はF650GS Lowerモデル(シートの位置が通常のモデルよりも低い)のため、両足が地面にベタッとつく高さのサイズ)だったよ。
 Jo: 私の最初のバイクはBMW F650GS Dakarで、シートの高さが高いものだったの。それで慣れてしまったわ。停車する時は片足が地面につけば大丈夫でしょ。高さのあるバイクでも、身体をずらして片足で停車してるわ。バイクはハンドル操作よりもバランスが重要だからね。
 Ja: その通りね。Joが今言ってくれた事と全く同じことをマイケルに何度も教えられた。でも頭では分かっているけど、身体が覚えるのに時間がかかって、私には難しかったわ。
 Jo: 大丈夫、大丈夫! ゆっくり時間をかけて慣れて行けばいいから。
 Ja: これまで何カ国をバイクで訪れたの?

Jo: 30カ国くらいかな。アフリカだけで45,000kmを走ったわ。
 Ja: 将来、ADVで一番訪れてみたい国はどこ?
 Jo: サウスアメリカは特に行ってみたい! アメリカにもまだ行ったことがないし、カナダも。モンゴル、ロシア、インド、オーストラリア…。(溜息をついて)とにかく沢山ありすぎる!!! 3人: 世界は広いからね!!!
 Ja: 更なる目標などがあれば教えてください。
 Jo: 夢だった女性単独でのアフリカ大陸のADVライディングは達成し、最近の新しい夢と言えば、少しタフになるけどダカール・ラリーかな。
 Ja: え? ダカール・ラリーって、あのオフロードのみのタフなレース!?
 M: ダカール・ラリーはバイク、ATV、バギー、トラックなどによる大きなレース。一時期は、パリからダカール市があるセネガルまでのレースだったけど、今はサウスアメリカ大陸を北から南に横断するレースだよ。
 Ja: ぎゃっつ! Jo、あなた本当にタフね! さて、バイクに対する貴方の座右の銘は?
 Jo: "Adventure Freedom" これに尽きるかな!
 Ja: 素敵な言葉! そして同感! Joは女性ADVライダーに関してどう思う?
 Jo: 女性ADVライダーが世界中で増えていくことは本当に刺激になるし嬉しい。特にGS Girlsの集まりでは(前号P50-51の集合写真参照)、女性同士のエネルギーが集結し、それは自信に満ちていて、自立していて、とってもパワフルな要因だね。私にとって、女性ADVライダーの成長の過程を目にすることは、本当にわくわくする事なの。
 Ja: なぜオフロードやデュアル・スポーツバイクに挑戦してみようと思ったの?
 Jo: それが必然的な選択肢だったのが正直なところかも。多分、私の性格が大きく関与していると思うわ。好奇心旺盛で、いつだって普通では満足できなかったの。舗装された道路をただただ走っていたけど、ナミビアで初めてオフロードを経験し、虜になったわ。わぁ〜何て楽しいの〜! ってね!
 Ja: いきなりオフロードで怖くなかった?
 Jo: 怖かったわ。でも、他の人が出来るんだから自分も出来ると思った。いきなり旅に出たから独学で学ぶ他なかったわ。ただ旅が終了してからライディングコースできちんと基礎を学んで、癖を修正してもらったの。独学と、コースで学んだことを同時に振り返った時、私が学んだことをライダーに教えたい、示したいって思うようになったの。例えば生徒が、「怖い、出来ない」って言うても、大丈夫、私が出来たのだから、貴方も出来るわ!

私がお手本を見せてあげるから、って言う。
 Ja: Joは類稀な女性GSTロフィー経験者ですが、なぜ参加してみようと思ったの?(GSTロフィーは3人1組の長距離耐久レースで、各国のチームが、多数のステージを日ごとに行なっていく)
 Jo: これは私にとって自分を高める為のチャレンジだったわ。チャレンジすることによって更に自分のレベルアップにも繋がるし。ダカール・ラリーとか、ADVライディングほどのチャレンジではなかったけどね。チャレンジしてみたら、とにかくLOVEよ! 凄くタフだったし、相当なライディングスキルが必要だったけどね。
 Ja: GSTロフィーの経験を簡単に説明してもらえますか?
 Jo: OK、GSTロフィー初年度の年、2008年に1組だけ女性チームがあったの。でも翌年の2009~2015年の間は女性チームが1組も無かった。ラッキーな事に私はGSTロフィーで初の女性チームコーチに就任させてもらえた。人選に関しては、まず世界中の女性ダートライダーの中からインタビューなどを経て、去年のBMW Motorrad Dayで10人を選出し、彼女らの実力を吟味し、最終的にGSTロフィーにエントリーする3人を選出したの。私は初の女性ジャッジとして会場に大会の1週間前に着いて、関係者と共にコースの下見や、私たちが何をすべきかを話し合ったり大変貴重な経験が出来たわ。その経験からグループの絆が築けたのは言うまでもない事だし、全ての選手の心持が1つになっていたわ。
 Ja: 日本からの応募はあったのかしら?
 Jo: 多分135人の中にはあったかもしれない、はっきり覚えてなくてごめんね。予想以上に応募が多かったから。
 Ja: チャンスがあれば、日本をADVライディングしてみたいと思いますか?
 Jo: YEAH、勿論! 日本には1度も行ったことないから、絶対に行ってみたい! 日本はとても興味がある国だね!
 Ja: それは光栄だね!
 Jo: 日本の事も日本人のこともあまり知識がないけれど、人々はとても勤勉で親切で、尊敬し合う国民という認識があるわ。とても美しい国で、人々はいつも笑顔でいるイメージがあるわ!
 Ja: わぁ〜、ありがとう! 笑顔でいるように努めるわ! 最後に日本の女性ライダーをはじめ、世界の女性ライダーに向けてメッセージを!
 Jo: たとえ不安でも、心配でも、怖くても、女性同士だからわかることがある。どうか諦めないでチャレンジし続ける事が大切だと思うわ!

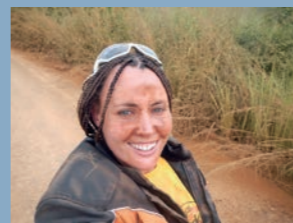
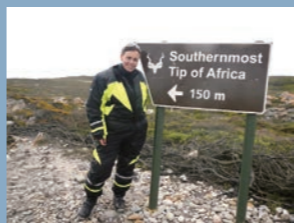
バイクの種類です。すると、続々と女性Beemer達が集まってきました。チームを取り仕切っている一際目を引く女性。そうです、正に彼女がJolandieだったのです! しかし、凄く人が目の前にいると、意外にも分からないもので、名前を聞いてぶっ飛び上がり、1人でアンバリながら日本語で大騒ぎ! Jolandieのマネージャーに事情を説明し、インタビューを取り付け、興奮して眠れない夜を過ごし、翌日、急ながらもインタビューが実現したのです!
 それでは、オフロード界で偉業を成し遂げた、Jolandieのインタビューをご覧くださいませ!

名前はJolandie Pust。彼女の存在はフェイスブックの女性ライダー繋がりで随分前から知っていましたが(女性ADVライダーは世界中でもまだまだ希少な存在の為、ADVライダー同士SNS上で濃密に繋がりがありません)、出会いは突然訪れました。
 BMWイベントで、女性ライダーだけの催しはないかとリサーチをした所、ヨーロッパの女性GSライダーチームの集いがあるとの噂を聞きつけ、指定場所に指定された時間に行ってみました。ちなみにGSとはBMW

Love Letter From USA!!
 Girls Biker
 PARAVION
 アドベンチャー
ADV
 ガールズライダー♡
PICK UP!!
 世界にはバイクで旅をする女子ライダーがたくさんいます。そんな彼女たちに焦点を当て、色々聞いてみます!
 PHOTO & TEXT / jasmine T Cardwell



BMWのイベントで初対面を笑顔でできたときの調査の1枚



多くの国をバイクで訪れている彼女。「アンゴラは本当に美しい国。それからモロッコ、チュニジアも私にとっては凄く特別な国で、そこから西に向かったエチオピアはライディングした中で最も美しい国だと思ったわ。サウスアフリカは本当にADVライディングの天国よ。多様性を秘めた国で、何処にだって行ける気がするわ!」とにかく比喩しようのない美しさで、多くのサファリや野生動物に出会えるわ。」と、どこが1番は選べなかった



世界を旅したADVライダーに共通して言える事は、フレンドリーで僕が深く、キラキラした瞳の持ち主ばかりです。常にポジティブで、彼女らの人柄が自然と彼女らの世界に引き込んでしまう魅力を持っています。世界には魅力に溢れた女性ライダーがたくさんいます! 私は彼女達に行く先々の国でハンティング(インタビュー)し続け、彼女らが楽しんだADVの歴史を、日本の女性ライダーの皆さんにシェアできれば光栄に思います。jasmineのハンティングは続きますよ。living our dream, living my journey... I will see you again soon!!!



jasmine T Cardwell

2006年にカリフォルニア州はサンディエゴに単身渡米。現在の旦那マイケルとの出会いをきっかけに2011年バイクの免許を取得。以来アドベンチャーライダーに急変身! アメリカのライダー事情を中心にjasmine目線のアメリカを皆さんにお届けします

アドベンチャーライディングって?



何が起こるか分からない、どんな出会いがあるか分からない…。どんなに険しい山道も、砂漠も、森の中も、川の中も、大都会も、秘境の地も、如何なる天候であろうが、如何なるコンディションであろうが、Two-wheeler(自動二輪)に必要な最低限かつ必要最大限の夢と希望を詰め込んで、世界中をどこまでもひた走る…。それがアドベンチャー・ライダー